鳥取大学

産学・地域連携推進たより

- 研究推進に関する事業報告
- 地域貢献・生涯学習に関する事業報告
- 知的財産管理運用に関する事業
- 鳥取大学 サイエンス・アカデミー

2015
冬号

① 研究推進に関する事業報告

1. 食品開発展 2014 【 10 月 8-10 日（水･木･金） 開催：東京ビッグサイト】

本展示会は、アジア最大の健康素材の展示会として海外からも大きな注目を集め、今年度は 18 か国･地域が出展し、59 か国からの来場がありました。ビッグサイトを会場とし、800 を超える展示ブースが出展され、総来場者数は 3 日間で 41,095 人にのぼりました。本学からは「マリンナノファイバーの機能性食品への応用」(工学研究科・伊福伸介准教授)「バイオナノファイバーによる小麦粉生地強度を高める技術」(農学部・上中弘典准教授)「機能性食品としてのバイオナノファイバー」(農学部・東和生助教)の 3 つの研究テーマ出展し、展示ブースへの来場者数は 455 人でした。訪問者からは多くの質問が寄せられ、積極的な研究シーズ発信が出来ました。

2. 第 5 回化粧品開発展 【10 月 20-22 日（月･火･水） 開催：東京ビッグサイト】

本展示会は、化粧品開発に関わる原料・容器メーカー／OEM企業などが多数出展し、会場では化粧品メーカーなどと多くの商談が行われ、活気に包まれました。今年度もビッグサイトを会場とし、541社が出展し総来場者数は3日間で20,754人にのぼりました。本学からはアカデミックフォーラムとして「マリンナノファイバーの製造とヘルスケア」(工学研究科・伊福伸介准教授)「らっきょうエキスの化粧品素材としての応用」(農学部・渡邉文雄教授)「二十世紀梨：化粧品開発における機能性成分の新規リソース」(大学院連合農学研究科・児玉喜一朗教授)の3つの研究テーマをポスター展示・プレゼンをし、大学では唯一展示ブースを設けて本学シーズの説明を行いました。展示ブースへの来場者数は532人で、多数のお問合せをいただき、効果的な情報発信が出来ました。

3. 鳥取大学東京ビジネス交流会

【10 月 24 日(金) 開催：キャンパス・イノベーション・センター東京】

今回のビジネス交流会は、工学部の土木、機械、電気電子の３学科の同窓会を中心として、関東地区の企業様に研究シーズを紹介し、個別面談等によりマッチングを図るべく開催しました。第１部では、鳥取県東京本部の前田修本部長より鳥取県の最新動向、河田康志工学部長からの平成27年度に改組される工学部の最新動向等のプレゼンテーションがあり、これに引き続いての第２部では、土木工学科の黒岩正光教授、西村強教授、谷口朋代教授、機械工学科の宮近幸逸教授、小畑良洋教授、西田信一郎教授、電気電子工学科の李相錫教授、笹岡直人助教、の計8件の研究シーズが発表され、参加者が熱心に聴講されました。参加者は全体で68名、第３部の懇親会にも48名が参加されて、次に繋がる活気を感じられるビジネス交流会となりました。

4. 鳥取大学大阪ビジネス交流会

【11 月 7 日(金) 開催：鳥取県関西本部】

本ビジネス交流会は関西地区の企業に対し、鳥取大学の研究シーズを発表する事で産学連携を推進する事を目的とするものです。本年は関西本部米田裕子本部長より「鳥取県の最新動向」、河田康志工学部長より「鳥取大学工学部の最新動向」の話があり、また研究シーズとして土木工学科、機械工学科、電気・電子工

学科の各学科より3件ずつ、計9件の発表を行いました。発表者は、香川敬生教授、黒田保教授、梶川勇樹助教、小出隆夫教授、佐藤昌彦教授、赤尾尚洋助教、市野邦男教授、三柴数助教、宮下英俊助教でした。また、今回は各学科の同窓生にも案内する事で例年を超える参加者があり、研究シーズ発表会では76名の参加、懇親会には61名の参加がありました。技術相談、意見交換、議論も活発に行われ、全体として非常に活気ある交流会となりました。

5. 第１回 鳥取大学・JAEA 人形峠環境技術センター研究者等交流会

【12 月 1 日(月)　開催：鳥取大学広報センター】

本学と日本原子力研究開発機構（JAEA）との研究協力に関する協定書の締結に伴い、人形峠環境技術センターとの第１回研究者等交流会を開催し、参加者は本学 20 名、人形峠環境技術センター13 名（計 33 名）でした。第１部の研究発表会では、両機関の研究者が合わせて 8 件の発表を行い、活発な質疑応答と意見交換がなされました。本学の発表テーマ（演者）は、「黄砂・PM2.5 の研究とマスクによる防護機能」（医学部・大西一成助教）、「少子高齢化に向けた機能性野菜の開発」（農学部・渡邉文雄教授）、「タイムラプス顕微鏡撮影動画を用いた生細胞の放射線影響評価とその応用」（医学系研究科・栗政明弘准教授）でした。第２部の親睦会では、人形峠環境技術センター竹中所長が持参の銘酒を味わいながら、竹中所長の日本酒に関するミニ講義を拝聴しました。会場は和気藹々の雰囲気で、研究者同士が交流を深めました。

6. ヘルス＆スポーツフード EXPO2014　【12 月 4-6 日（木･金･土）　開催：東京ビッグサイト】

本展示会は、日本最大級のスポーツ関係専門の展示会で、注目の新製品・最新情報など、スポーツ・健康産業に関する350社が出展しました。今回は 文部科学省大学発新産業創出拠点プロジェクト（START）の事業プロモーター・ＦＴＩ(マリンナノファイバーの事業化を担当しています。)との共同出展をし、本学からは「鳥取大学発　新植物繊維「マリンナノファイバー®」とヘルスケア」（工学研究科・伊福伸介准教授）1 名のセミナー講演を行い、展示ブースへの来場者数は294人となりました。多数の企業の方より多くのお問合せをいただき、大学事業として発展させるための効果的な情報発信の場となりました。

② 地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 鳥取大学振興協力会第 2 回役員会及び交流会　【10 月 6 日（月）　開催：ホテルモナーク】

鳥取大学振興協力会は平成26年度の第２回となる役員会及び会員交流会を開催しました。役員会では、専任コーディネーターを新たに配置したことにより、研究室訪問や企業ニーズ発表会など、会員企業との連携強化のための活動が活性化されていることなどについて報告を行った後、意見交換を行いました。

続いて行われた講演会では、産学・地域連携推進機構の松原機構長が「蓄電技術による鳥取新電力のビジネスモデルについて」と題して講演を行い、会員企業67名が参加しました。最近大学へ導入されたプラスチック電池のデモンストレーションを取り入れながら、これからの蓄電池

に関する新商品や新システムの展開とエネルギーマネジメントシステムについて講演し、会員企業との新たな連携に繋がる機会となりました。

2. 共通教育科目「とっとりの海の幸を学ぶ」

【10 月 7 日（火）　開催：鳥取大学鳥取キャンパスほか】

本年 10 月から新しい授業科目「鳥取の海の幸を学ぶ」を開講しました。

この科目は、鳥取県の重要な産業である水産業について体験しながら学ぶことにより、地域の特色ある自然や産業についての教養を身につけるとともに、キャリア形成や社会での課題解決能力涵養に役立てることを目的として開設したものです。鳥取県農林水産部水産振興局、水産試験場、栽培漁業センター、境港水産事務所や（地独）鳥取県産業技術センター食品開発研究所の協力により、水産業の現場訪問による視察・体験学習を組み入れました。

3. 風紋祭での模擬店出店、及び食材提供

【10 月 11 日（土）～13 日（月）　開催：鳥取大学鳥取キャンパス】

鳥取大学と連携している４町（日南町・南部町・大山町・琴浦町）の特産品をＰＲするため、大学と連携４町が協働し、風紋祭に模擬店を出店しました。日南町の白米や南部町の漬物、大山町の鶏肉、琴浦町のあごちくわなどをふんだんに使用した「炊き込みご飯」は大変好評で完売し、地域の特産品を来場者に知っていただく良い機会となりました。

また、例年に引き続き大山町、琴浦町、鳥取県水産試験場では、料理サークルの学生が出展する模擬店にも食材提供を行い、併せて町（団体）をＰＲしていただきました。提供食材で作られたチヂミ、ハタハタの唐揚げ、プリン等は来場者から非常に好評を得ました。

4. 鳥取大学サイエンス・アカデミー in Yonago

【10 月 11 日、18 日（土）、11 月 8 日、22 日（土）　開催：鳥取大学医学部総合教育棟 323 講義室】

鳥取大学では、本学の教員が行っている研究や、地域住民の皆さんが日頃疑問に思っていることなど、自然科学、技術、環境、地域社会に関する今日的課題についてご紹介する「サイエンス・アカデミー」を毎月第2・第4土曜日に開催しています。

普段は鳥取市内で開催しているサイエンス・アカデミーですが、毎年10 月と11 月は「サイエンス・アカデミー in Yonago」と題して、鳥取キャンパスの研究者が今取り組んでいる特色ある研究内容をご紹介しています。今年度は、鳥取大学医学部にて計4回開催し、延べ128名の方にご参加いただきました。

5. 第３回とっとり防災・危機管理研究会

【10 月 21 日（火）　開催：鳥取大学地域安全工学センター、及び鳥取県庁】

平成 26 年度第 3 回とっとり防災・危機管理研究会を、工学部附属地域安全工学センターを主会場に鳥取県庁、米子地区部門、大山町の 3 箇所をテレビ会議で繋ぎ、鳥取大学研究者・県内各防災担当職員等 25 名の出席のもと開催しました。この研究会では自然災害などを専門とする研究者が横断的に連携し、その成果を広く地域に発信しています。はじめに工学研究科の中村公一准教授から先頃発生した広島県の土砂災害の概要について話題提供がなされ、土砂災害特別警戒区域の定義を見直す必要性などについて発表されました。この他に鳥取県主催の「とっとり防災フェスタ 2014」への出展内容について協議し、土砂災害関係の出展を追加することを決定しました。

6. とっとり防災フェスタ２０１４　【11 月 2 日（日）　開催：大御堂廃寺跡公園】

今年度も鳥取県主催のとっとり防災フェスタが倉吉市で開催されました。これは県民の防災意識を高めようと鳥取県が毎年おこなっているものです。保育園児による鼓笛隊演奏から始まり、消火訓練、災害疑似体験、炊き出し体験、スタンプラリーと盛り沢山の内容で開催され、会場には約 8，000 人が訪れました。

鳥取大学からはとっとり防災・危機管理研究会がブースを出展しました。ブースでは津波や地震、土砂災害の発生装置模型などを展示したほか、防災クイズを実施し、工学部の学生が来場者にわかりやすく説明をしました。ブースを訪れた子どもたちは、模型を使って楽しく防災について学ぶことができました。

7. 鳥取県県土整備部、企業局、鳥取大学による意見交換会

【11 月 10 日（月）　開催：鳥取大学広報センター】

鳥取県県土整備部、鳥取県企業局、鳥取大学の三者による意見交換会を鳥取大学広報センターにて開催しました。なお、企業局は今回初めて参画されました。

県土整備部からは湖山池汽水化の取組や、昨今の豪雨による土砂災害対策、若者・女性の就業拡大などについて、企業局からは同局が行っている各事業と併せて、今後の新エネルギー導入に向けた取組についてご紹介いただきました。また本学からは、平成27年4月に予定されている工学部改組や、工学部附属地域安全工学センターの活用等について要望、情報提供等を行いました。

8. とっとりふるさと元気塾第 3 回地域内交流研修

【11 月 12 日（水）　開催：鳥取大学鳥取キャンパス産学・地域連携推進機構研修室】

鳥取市では、中山間地域の課題を解決し、地域や集落をイキイキと元気にする実践者・リーダー養成を目的に、平成 26 年度「とっとりふるさと元気塾」を開校しています。今回、研修の一環として塾生約 20 名が来学されました。松原機構長の挨拶に続き、本学の地域貢献、地（知）の拠点整備事業、産学・地域連携推進機構に関する取り組みを説明しました。また、参加塾生が地域の課題・取組について発表

された後、参加者全員による意見交換を行いました。

9. 鳥取大学振興協力会県外先進地視察　【11 月 13 日(木) ～14 日(金)　開催：兵庫県姫路市ほか】

鳥取大学振興協力会では産官学交流事業の一環として毎年県外先進地視察を行っており、今年は兵庫県播磨地区への視察を実施しました。野津会長（美保テクノス(株)代表取締役社長）以下、県内の産学金官関係者 24 名にご参加いただき、播磨地区で活発な産学連携活動に取り組む「はりま産学交流会」との交流のほか、医療・産業用の金属精密加工を得意とする(株)木下技研、数多くの海洋土木プロジェクトを手掛ける(株)吉田組、産学連携により新しいトイレットペーパー商品の開発に取り組む西日本衛材(株)など、３社の視察を行いました。

10. 第 12 回食品開発と健康に関する研究会　【11 月 18 日（火）　開催：鳥取大学広報センター】

食品関連産業の振興を目的に「健康」をキーワードにした食品開発について産学官の関係者が意見交換する研究会として、平成 17 年より毎年開催されています。今年は 60 名が参加し、３題の講演、鳥取大学農学部准教授薮田行哲氏「歯垢合成阻害物質の探索」、（株）松下食品 代表取締役社長塩谷隆之氏「鳥取県内における農産加工・６次化への取り組み事例」、鳥取県福祉保健部健康政策課難波伸子氏「食品表示制度に関する情報提供～栄養成分表示の義務化～」を伺い、意見を交換しました。

11. 鳥取県地域振興部との意見交換会　【11 月 18 日（火）　開催：鳥取大学共通教育棟第 1 会議室】

鳥取県地域振興部と鳥取大学による意見交換会を鳥取大学共通教育棟 第1会議室にて開催しました。両者のより一層の連携強化を図ることを目的に毎年開催しているもので、県地域振興部からは小倉部長をはじめ11名が、本学からは田中理事、細井理事、法橋理事をはじめ17名が出席しました。

地方創生などをテーマに、地域おこし協力隊への支援策や新たな生活交通モデルの創造、ジビエの有効活用など、多岐にわたる話題について活発な意見交換が行われました。

12. 鳥取県商工労働部等と鳥取大学との意見交換会　【11 月 19 日（水）　開催：鳥取県庁】

去る11月19日（水）、鳥取県商工労働部、鳥取県産業技術センター、鳥取県産業振興機構、鳥取大学の四者による意見交換会を鳥取県庁にて開催しました。本意見交換会は、平成18年より毎年1回程度開催しており、今年度は総勢37名が出席しました。今年度の各機関の取り組みや検討課題などについて意見が交わされる中、特に「地域協働型インターンシップ」については、来年度以降も産官学が連携したコラボ型のスキームにより事業を継続していくことが示し合わされました。

13. とっとりグランマ倶楽部公開講座　【11 月 15 日（土）　開催：鳥取大学アートプラザ】

とっとりグランマ倶楽部は、明治大学、鳥取県、鳥取大学が連携し、地域や社会に役立ちたいと考える女性の支援を目的として、人材育成講座を毎年開催しています。今回、これらの取組をより多くの人に知って

いただくこと、また当倶楽部の修了生同士の交流の輪を広げることを目的として”公開講座”を開催しました。

「女性が輝く地域づくり」をテーマに、県外の事例報告（登壇者：株式会社ハーストーリイプラス代表取締役 佐藤緑さん）や、当倶楽部修了生によるトークセッションを行い、聴講者約30名が熱心に聞き入りました。

また、公開講座終了後には、グランマ倶楽部の結成にも深く関わられた明治大学国際日本学部 吉田悦志教授をゲストに迎え交流会が行われ、参加者同士それぞれの活動状況などについて情報交換を行いました。

14. 鳥取大学教育研究・事業成果報告会　【11 月 20 日（木）　開催：とりぎん文化会館】

平成 25・26 年度に実施した鳥取大学地域貢献支援事業と、COC・地域志向教育研究事業の成果報告会をとりぎん文化会館で開催し、自治体職員や地域住民の方など 60 名の参加がありました。いずれの事業も地域課題の解決を目指して取り組んだもので、各自治体の職員の方からも連携事例についてご報告いただきました。

このうち農学部の小林教授からは、集落営農の実態分析と育成支援のあり方について鳥取市農林水産部と連携した「市場環境激変下の地域水田農業の担い手育成支援事業」の報告を行い、来場者は発表に聞き入っていました。

15. ＴＯＲＩＤＡＩ ＥＤＧＥ vol.2

【11 月 26 日（水）　開催：鳥取大学地域学部サテライトキャンパスＳＡＫＡＥ４０１】

鳥取大学では平成 25 年度より採択されている文部科学省「地（知）の拠点整備事業」の一環として双方向型の公開講座 TORIDAI EDGE を開講しています。今回は 8 月に続く開催となりました。前回の参加者のご意見を参考にして、今回より専門家から話を聞く「Talk」と参加者自らが対話をする「Cafe」のふたつの講座に分けての開催となりました。11 月 26 日の Talk では工学研究科の福山敬教授と鳥取県地域振興部の國米課長をゲストに迎え、広域生活圏についてのレクチャーを実施しました。当日は約 20 名の方にご参加をいただきました。続いて 12 月 17 日に開催予定でした Cafe は当日悪天候のため 2015 年 1 月 7 日に延期となりました。

16. 第２回鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議　【12 月 1 日（月）　開催：日南町役場】

12月1日（月）、日南町役場を会場に今年度第2回目となる「鳥取大学-日南町連携事業ワーキング会議」が開催され、大学教員や町職員のほか関係者ら30名が出席しました。

毎年、第2回目のワーキング会議では、今年度の連携事業の進捗状況（中間報告）の確認と次年度の連携事業の組み立てについて協議が行われます。今年度連携して取り組んでいる13件の事業については概ね予定通り進んでいることが確認されました。

また、来年度は鳥取大学と日南町が連携協定を締結して10周年となることから、記念事業の開催計画など

について活発な意見交換が行われました。次回は年が明けて2月下旬から3月上旬頃に第3回目のワーキング会議が行われる予定です。

17. 日南町オーダーメイド型インターンシップ

【9 月 29 日(月）～12 月 1 日（月）　開催：日南町役場】

9 月 29 日から 10 月 3 日の 5 日間、将来行政職を目指す 6 名の学生が日南町を訪れインターンシップを行いました。「日南町町の課題学習」では、日南町中心地域整備構想や日南町第 5 次総合計画（後期計画）などについて、町の事業担当者から説明を受け、現地視察を行うことで町の現状と課題の一部を理解しました。また「町営バス乗降調査」では、町営バスに乗車（全 6 路線全便）し、乗車人数や乗車場所を記録し乗車密度を算出し､併せて車内やバス停の様子などを記録し、危険箇所や乗降者のマナー、運転手の運転マナーなどについての調査・分析も行いました。ワークショップ「やんれ♪日南！！」では、学生らしい柔軟な発想でまちづくりのためのアイディアや政策を住民と一緒に考えました。12 月 1 日に日南町役場で開催された「インターンシップ報告会」では、インターンシップでの経験をもとに学生が日南町に事業や政策を提案する形で報告がなされ、参加した学生と町の職員が意見交換を行いました。

18. 第８回琴浦町産学金官連携情報交換会　【12 月 3 日（水）　開催：東伯トピア】

第８回琴浦町産学金官連携情報交換会が琴浦町の東伯トピアで開催され、琴浦町をはじめ町内の企業や金融機関、中部総合事務所、鳥取大学などが一堂に会し、意見交換会が行われました。鳥取大学は、琴浦町との連携事業のほか、鳥取大学振興協力会の活動報告、地域協働型インターンシップ、工学部附属先端融合研究センター（TiFREC）について説明するとともに、これらの事業を活用していただくようＰＲを行いました。

19. 鳥取大学振興協力会西部地区懇談会及び交流会　【12 月 8 日(月）　開催：米子全日空ホテル】

鳥取大学振興協力会では産官学交流事業の一環として各地区会員との懇談会を行っており、西部地区の会員26名に参加いただき、大学への提案や要望についての意見交換を行いました。会員からは企業と大学の距離を積極的に縮めて欲しいといった意見が寄せられ､会員企業のニーズに可能な限り対応していくことなど協議を行いました。

続いて行った講演会では｢高難度手術を解決する医療用ドリルの研究開発」をテーマとした産官学連携の優良事例の紹介を行い、(株)ビック・ツールの木村開発部長、医学部附属病院次世代高度医療推進センターの植木教授、附属病院整形外科の永島教授の講義に、参加した72名が耳を傾けました。

20. 産学官連携により地域の水産資源を活用する方策を先行事例に学ぶ「地域の水産資源活用セミナー」　【12 月 15 日（月）　開催：境港商工会議所大ホール】

本セミナーは、鳥取大学日本海水産資源研究会と地域貢献支援事業「産官学連携による地域における新

たな水産業の創出を支援する取組み」の主催、境港市と境港市産地協議会の共催により約 60 名が参加して実施されました。本学の法橋誠理事、境港市の中村勝治市長の挨拶に続き、地域貢献・生涯学習部門の清水克彦准教授が日本海水産資源研究会の本年度の取組みについて報告を行った後、広島大学大学院生物圏科学研究科山尾政博教授から「東アジアの水産物市場流通と日本の水産業　～競争か、連携か～」と題してご講演いただきました。講師の熱心なご講演と活発な議論により会場は熱気に包まれました。

21. 鳥取大学振興協力会中部地区懇談会及び交流会

【12 月 18 日（木）　開催：ホテルセントパレス倉吉】

西部地区に続き、中部地区においても懇談会を実施し、中部地区における産官学の連携強化などについて会員18名が参加し意見交換を行いました。会員からは学生の地元企業への就職に対する要望が寄せられたことに対し、早い年次からインターンシップを組み込むなど地元産業界へ関心を持たせる取り組みを行っていることなど報告を行いました。

続いて行った講演会では、農学部の西原准教授から「薬用植物や機能性植物等の栽培技術とそれらの植物工場への展開の可能性」について、工学研究科の中村准教授から「平成26年広島豪雨災害と平成25年7月鳥取県中西部豪雨災害の相違点」について講演を行い、参加した68名は身近なテーマだけに、興味深く聞き入っていました。

22. 第２回大山町・鳥取大学連携推進連絡会　【12 月 22 日（月）　開催：大山町役場】

大山町・鳥取大学連携推進連絡会が大山町役場本庁舎で開催され、30名が出席しました。連絡会ではまず本年度の連携事業の進捗状況について報告が行われました。その後、大山町から医療費削減に向けた取り組みや地域自主組織との連携について説明があり、大学へ支援・協力を求めました。鳥取大学からは来年度から開設予定の地域を学ぶ動機付けを行うことを目的とする教育的授業科目について説明をおこないました。また、中山間地や沿岸集落のまちづくりへ役立ててもらおうとプラスチック蓄電池について松原機構長が情報提供を行いました。活発な意見交換が行われ、引き続き相互に連携を密にしていくことを確認しました。

23. 鳥取銀行による鳥大技術シーズ紹介冊子（vol.5）の発行

これまで本学と様々な連携を図っている鳥取銀行から銀行顧客向けの鳥大技術シーズ紹介が発行されました。このシーズ紹介冊子では銀行員によるインタビューや共同研究先のコメントなども記載して分かりやすく作られています。

Vol.5 となる今回は、医学部附属病院 次世代高度医療推進センターの植木教授の「鳥取発『発明楽』による人財育成と医療機器開発～企業と連携した課題解決型次世代医療機器の開発～」の技術シーズが掲載されています。大学 HP にも掲載されていますので、是非一度ご覧ください。

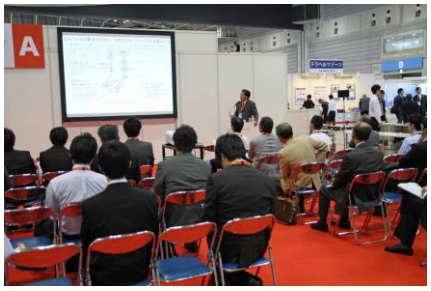
24. ものづくり道場について（１０～１２月）

ものづくり道場では､地域の子どもたちにものづくりを教える指導者養成講座を県内3箇所で開催しており、11月から東部、中部、西部地区で開催し、それぞれ21名、17名、16名が受講しました。今年度から修了生向けの「ものづくり応用・指導法講座」を設け、意見交換しながら、ものづくり教室の企画と運営の方法等を学ぶ講座を実施しました。今後は実際の子どもに教える実地演習を経て、晴れて修了生となります。

指導者養成講座の修了生は地域で色々なものづくり教室で活躍しています。東部地区では10月18日～19日にわらべ館でものづくりひろばが開催され、数多くの方々と一緒に竹笛づくりのコーナーを開き、来場した子どもたちに指導しました。西部地区では10月19日に開催された米子市こども大会でかわいい布ではたきをつくるブース等を開き、大盛況に終わりました。中部地区ではことうらこどもパークでものづくりブースを出展し、修了生が大活躍しています。

③知的財産管理運用に関する事業

1. バイオジャパン 2014　出展　【10 月 15 日(水)～17 日（金）　開催:パシフィコ横浜】



ライフ、グリーン、機能性食品、バイオクラスター＆ベンチャーを中心としたビジネスパートナリングを基軸に、国内外から２５カ国・地域を超える参加者があるマッチングイベントに、本学から医学系研究科 中村貴史准教授による「がん特異的に増殖するワクシニアウイルスを用いた革新的がんウイルス療法の開発」と医学部附属病院 松本和也助教による「膵臓癌の診断効率を高めるバイオマーカーとデバイスの開発」をテーマとする特許技術について発表を行いました。プレゼンテーションには、それぞれ約４０名の参加者があり、満席に近い聴講者でした。出展ブースにも当該内容に関心を示す企業関係者が約３２０名訪問し、複数の方から技術内容について質問等がありました。

2. 中国地域さんさんコンソ新技術説明会　【10 月 31 日(金)　開催：JST 東京本部別館ホール】

本発表会は、中国地域の大学が連携するさんさんコンソが主催となって、平成21 年から開催しているもので、今回で６回目の開催となります。今回は、「情報・通信、計測・分析、省エネ・環境、ライフサイエンス、ものづくり」の技術をテーマに、岡山県立大学、広島市立大学、県立広島大学、岡山理科大学、鳥取大学、山口大学、広島大学、岡山大学の８大学から８件の新技術を発表しました。本学からは、大学院工学研究科・櫛田 大輔 助教が「筋活動電位（EMG）を用いた筋疲労の定量的な評価と予測」と題して発表しました。

■鳥取大学　サイエンス・アカデミー　【２・３月の予定】

『大学発ベンチャー　～大学の知を社会へ～』シリーズ

① ２月１４日　「ファインドパース（株）の事例について」　工学研究科　教授　石井　晃

② ３月１４日　「（株）楽人の事例について」　農学部　准教授　有馬 二朗

③ ３月２８日　「日本トリップ有限責任事業組合の事例について」　工学研究科　教授　菅原 一孔

発行日:平成27年1月15日＜第39号＞　連絡先:鳥取大学産学･地域連携推進機構
所在地:〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ:http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
TEL:0857-31-5609　Fax:0857-31-5571　E-mail:ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp